

開催決定ニュース



このたびの千年に一度という東日本地方を襲った大地震で福島県は、地震と巨大津波、原発事故とトリプルの大災害となっています。しかし、県民は、こうした困難な状態の中でも希望を失わず復興を目指し頑張っております。幸いにも石川町は、強い岩盤と地形により地震被害、放射線被害とも少ないことから被災市町村の支援を行っているところです。しかし、原発事故による風評被害がじわじわと町民を苦しめており、これらの対策が急務となっております。

おりしも今回、JBCFから東北で唯一、大会を開催できる環境が認められ、第45回東日本ロードクラシック（第10回石川大会）大会が開催できることは町民にとっても大きな喜びであり、風評を吹き飛ばす応援になると期待しています。また、被災地や多くの被災者のためにも「がんばろう！東北！がんばろう！日本！」を合言葉に大会が開催され、選手の皆さんの活躍で勇気と感動を与えていただくことが、被災されました方々へエールとなることだと固く信じています。選手の皆さんの奮闘を期待します。

石川町長 加納 武夫





今日は素晴らしい報告を、みなさんにご案内いたします。

このたびの東日本大震災の発生以来、JBCFでは、ロード5大会、トラック1大会を中止する事態に至りました。

とりわけ福島原発事故も発生した、福島県では公道上の主要なロードレースを永年地元のご協力で開催出来ただけに、その実施が不可能だと危惧しておりました。

しかし、石川町といわき市の福島県二大会のうち、石川町では町長を中心に開催の実現に向けて力強く推進頂き、県自転車競技連盟との連携活動もあり、奇跡的な開催が実現いたします。

これには地元の思いが通じたかのように、地震被害も他地区より少なく、放射線被害も無く、チーム、選手の皆さん方には安心して走れるコースが確保されています。

本大会が福島県全体の風評被害を払しょくする大会として、少しでも多くの参加により、被災地を元気づける機会となりますよう、また義援金だけではできない、大震災不屈支援として、実業団の底力を発揮して頂きたいと、切にお願いいたします。

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

理事長 斧 隆夫